

# 安住寺だより



# 禅の心

第173号

発行 安住寺 (年4回発行)  
 臨濟宗南禅寺派  
 大分県杵築市大字南杵築379  
 〒873-0002 TEL0978-62-2680  
 URL <http://www/anjuuji.net>  
 編集 矢野明玄 2・3頁  
 矢野玄德 1・4頁

## 謹賀新年

檀信徒の皆様には、無事に新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も倍旧のご法愛をお願い申し上げますと共に、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

令和三年辛丑歳旦



- |      |       |
|------|-------|
| 代表責任 | 矢野明玄  |
| 役員住職 | 矢野明玄  |
| 責任役員 | 矢野玄德  |
| 責任役員 | 植木文一郎 |
| 総代   | 清末静男  |
| 総代   | 中村文三  |
| 総代   | 西正文   |
| 総代   | 松本文次  |
| 総代   | 是久幸雄  |
| 総代   | 加藤傳藏  |
| 総代   | 麻生哲治  |
| 合掌会長 | 清末玲子  |
- (十二月二十日現在の役員)

## 大般若・初観音講

一月十七(日) 十一時より

一年の無事を祈願する年頭の行事ですが、新型コロナウイルス感染症予防のため役員、総代、地区世話人、合掌会会長様のみのご案内とさせていただきます。法要後は、ご参拝のみできます。

本年は、辛丑(かのとうし)の歳です。昔は農作業か荷車を曳く動物で、生産活動にとつて欠くことの出来ない大切な動物でした。今日では、食肉かミルク、バター生産の乳牛で、人々の食生活を支える生き物となつてしまいました。

上の写真は、南台の飛松天満社に鎮座する石像で、文化十一年(一八一四)に奉納されています。各地の天満社には、菅原道真公の因縁で多く奉納されています。更に、うづくまつている牛の石像には、諸病平癒の力があると考える「撫で牛」信仰が伝えられています。コロナ禍の今日では、大勢の人が撫でると感染の心配があります？。

また「牛に引かれて善光寺参り」と言う、仏教的なお話も伝えられています。信濃の国に住む欲深い老婆が軒下に布をさらしていると、通りかかった牛が布を角に引つ掛けて走り去りました。老婆は、布を取り返そうと追いかけてとうとう善光寺までたどり着き、信仰の道に導かれたと言うお話です。

古いお札 お持ち下さい

お焚きあげします

古いお札を焼却します。年末か大般若までにお持ち下さい。

## 義援金のお知らせ

令和2年度の義援金

令和2年7月豪雨災害義援金  
 150,000円

(内賽銭 126,906円)

沢山のお賽銭有難う御座いました

これまでの義援金累計

1,795,602円 (平成23年～)

(内お賽銭合計 1,129,366円)

(内・東日本震災分1,043,708円)

(その他の義援金 751,894円)

本年の年回忌は、下記のとおりです。お早めに相談頂ければ、ご希望の日程でお受け致します。

年回忌	没年
一周忌	令和二年
三回忌	令和元年
七回忌	平成二十七年
十三回忌	平成二十一年
十七回忌	平成十七年
二十五回忌	平成九年
三十三回忌	平成元年
五十回忌	昭和四十七年



写真は善光寺本堂

コロナ禍の今日、高齢者施設や病院にお見舞いにも行けず、最後の葬儀にも立ち会えないこともありません。お互いが元気でいる内に、『一期一会』の日々を過ごさずとも思いうる年です。閑栖

# 新たな年を迎え

檀信徒の皆様、また安住寺にご縁をいただいております皆様、明けましておめでとうございます。

令和三年の元旦を如何お迎えますでしょうか。

昨年来のコロナ禍の中で、例年のように親類ご家族で集まることも控えられ、静かな新年をお迎えの方もあることと拝察いたします。

昨年を振り返れば、コロナウイルス感染症を機縁として、オリンピックの延期、自粛や経済活動の停滞、様々な行事や活動が中止や縮小され、日本のみならず世界中が混乱し、現在も続いています。

当山におきましても、春の無縁供養説教会・合掌会総会、八月の施食会等の行事縮小・中止がありました。

お盆の棚経は皆様のご理解をいただきまして、マスク着用の上例年のようにお参りさせて頂きました。が、葬儀や年忌法要は、焼香のみでお参りや、人数を減らし会食を行わないご法要になるなど、一様に状況が変わりました。

このような中にありましても、総代様、地区世話人様をはじめといたしまして、檀信徒の皆様にご協力ご法愛を賜りまして、安住寺の護持が務まりましたこと、心より深くお礼申し上げます。

さてコロナ禍の中、江戸時代肥後国の海に出現したというアマビエが、疫病退散を予言したこと、コロナ退散を願ってブームとなりました。

藁にも縫うではありませんが、目に見えない恐怖の中、人は何かを拠り所とします。

奈良時代に天然痘が流行り、当時の人口の25〜30%にあたる100万〜150万人の方が感染により死亡したといわれます。聖武天皇はこの疫病を押しさえようと仏教の力を借り、各地に国分寺や国分尼寺を作り総本山として東大寺と法華寺を建て、大仏を造立しました。

天然痘やコロナ感染症のみならず、過去に起こった自然災害や原発事故など予測できない問題や現象が起きた時、恐怖や不安を鎮めるために、仏教は大切な祈り・願いの場として役割を担いました。

しかしコロナ問題は現在も続いています。医療現場をはじめコロナ感染症の対応をされている皆さんには敬意と感謝の思いで一杯です。

お釈迦様は苦しみを除く四諦八正道の教えを、病と病の原因、病の治癒とその治癒の方法からヒントを得たといわれます。

コロナ感染を「四諦八正道」になぞらえて考えてみる。

**苦諦**（四苦八苦。苦しみ。）

病相が診断されコロナに感染してしまつた状態

**集諦**（苦の原因は渴愛、煩惱）

病因の追求・コロナウイルス病因の境地・苦の消滅）

**道諦**（修行法・悟りに至る方法）

治療法や感染しないための対処法を正しく把握する。

（ワクチン開発や適切な治療）

中でも道諦が大切です。道諦は八正道の教えの実践です。

コロナ禍においては、治病のために適切な手段をとることも、感染予防のためにも、正しく状況を見て、正しく考え、そして正しく行動すること。すでに皆さんも実践されています。

ることと思いますが、改めてウイズコロナの生活の中、一日も早い終息と平穏な日常が訪れるよう共に行動し、ともに祈る心でこの一年が過ぎればと思います。

本年も変わらぬ御法愛を賜りますようお願い申し上げます。

明玄合掌

## 墓地西側水路整備

### 裏参道駐車場完成

秘仏御開帳事業を進めておりました、境内墓地西側水路整備並びに、裏参道駐車場の十二月十日をもちまして完成いたしました。

費用四百十八万円で杵築建設の工事で行いました。

お墓参り、ご法要やお寺の行事の際ご利用ください。



# 総代役員交代引継ぎ

昨年の九月末をもち総代様の任期満了となり、お二人の方から退任の意向を伺っております。

**清末静男様**（東大内山地区）

平成二十三年五月二十九日より九年七ヶ月在任

**西正文様**（地区外）

平成二十五年六月九日より七年六ヶ月在任

コロナ禍中で、後任選出が進んでおりませんでした。本年一月一日付けで新役員さんと交代させて頂きます。

新役員さんは

**古田忠夫様**（西大内山区）

**須賀正廣様**（地区外梓）

のお二人です。

清末様、西様には、拙僧晋山式後より永らくお世話になり、心よりお礼申し上げます。

また、任命・解任の辞令伝達は一月十七日の大般若法要の際に行う予定にしております。

春の寺報に新役員様の横顔をお伝えします。

## 【秘仏御開帳事業・三先師合同法要】

### ☆秘仏観音御開帳行事

（令和3年10～11月ごろ）

- ・御開帳期間 1か月程度
- ・開扉法要（稚児行列等）
- ・閉扉法要（観音講）

### ☆三先師合齋会法要

（11月5日予定）

※日程等の変更もあるかもしれませんが、御開帳行事・法要の詳細は総代様と協議の上お知らせいたします。

「ふるさととは遠きにありて思ふもの」室生犀星詩集『抒情小曲集』に納められた詩の冒頭で、皆さんもご存じのことと思います。

犀星が故郷金沢から東京に戻る際、再び故郷に帰らぬという別れの心、感傷を歌ったもので、幼少期に恵まれない環境で過ごした犀星が、東京から再び故郷に戻ったが、やはり幼いころと変わらない安らぎを得る故郷ではなかった時の心境であります。

さて、杵築市も他の過疎地域と同じく年々人口減が進んでいます。市内の空き家は増え、お檀家さんも年々減り、市外県外の世帯が増えています。しかし犀星とは異なり杵築を故郷とし懐かしみをもっている方も多いはずで

昨年10月8日に杵築城が復元50周年を迎えました。

今ではすっかり杵築の原風景ですが、復元工事を思い出す方もあるのではないのでしょうか。記念行事やライトアップもありました。



（ライトアップされて杵築城）



（天守閣から望む錦江橋・南台方面）

さみしさを増す町並みに、5年10年先はどうなっていることやらと不安に思うことも。そんな中、ふるさと納税は増えているようですが・・・

町もお寺も、そのうち故郷を離れた遠くの方に支えられるのか？

種田山頭火は『故郷（扉の言葉）』の中で、「故郷はとうてい捨てきれないものである。それを愛する人は愛する意味に於て、それを憎む人は憎む意味に於て。」といい。「身の故郷はいかにともあれ、私たちは心の故郷を離れてはならないと思う。」と言われた。杵築への郷土愛思い出してください。

◆昨年も墓地埋葬、永代供養につきまして、たくさんのご相談や対応をさせて頂きました。各家庭や当事者において、事情や状況は様々です。個々にあった対応をさせて頂いております。遠方でも伺っております。また、境内の永代供養墓『やすらぎの塔』は常時受付を致しております。



やすらぎの塔

## 【日々是好日】

○九月十二日、合掌会役員会開催。敬老会中止の確認と敬老者への記念品配布の準備を致しました。○十一月十九日、南禅寺派部内研修会。令和三年度の行事確認やコロナ禍における各寺院の状況報告。○十一月二十七日合掌会の皆様による奉仕作業。男性の参加を含め三十二人の御加勢をいただきました。お忙しい中にもかかわらず、ご協力ありがとうございました。お陰で諸堂も美しくなりました。○十二月十二日、坐禅会納会。十二月十八日、写経会納会。坐禅会も写経会も密を防止継続して開催しております。一年間ご参加いただきありがとうございます。○大晦日の日には、お札や位牌・卒塔婆のお焚き上げを致します。お役の終わったお札お位牌などがありませんでしたら、お寺の方までお持ちください。○例年の一月三日年始会は中止し、一月十七日の大般若祈禱会法要に総代地区役員さんを案内し年始にかえさせていただきます。一年の平安をお祈りいたします。

住職合掌

除夜の鐘

杵築の寺町には五ヶ寺が並び更に近くに二ヶ寺あります。大晦日には、一斉に鐘を鳴らしませす。それはそれは賑やかな年越しの夜になります。少し離れて聴くと、それぞれ音色に特徴があり、撞く人、撞き方によっても音が違います。

鐘を撞く時間とその数についてですが、諸説あつて確定できません。その一説ということでご承知下さい。先ず、歳が改まるという事で「一年の反省と新たな一年が災いの無い希望に満ちた日々であつて欲しい」と言うのが、その根底にあると思います。古くから寺院では「除夜経」と言つて夜通しの法要を行つていたそうです。その法要の「知らせ」に鐘を鳴らしたのが始まりで、反省と希望が込められた「百八の鐘」へと変化、定着したと思われます。

では、百八の数はどう言う意味が有るのでしょうか。人には眼・耳・鼻・舌・身・意の六根が有ります。それに対する六塵（色・声・香・味・触・法）があり、それぞれに好・悪・平（どつちでもない）の三種があ

り、六×三で十八。それに染まつているか、染まつていない浄の二種を掛けて三十六。更に、過去・現在・未来の三世を掛けて百八になります。百八は、数を限定するのではなく、人間はどのような生きる環境が変わつても『煩惱』に際限が無いということを示しているのです。今年こそ、全ての煩惱や禍からの解放、脱却を念ずる次第です。



安住寺の古梵鐘  
文和2年(1353)の製造

当寺にも、毎年多くの方が鐘撞きに見えます。来られる方は手袋・マスク等コロナ対策をして来て下さい。十一時半頃から始める予定です。

檀家さん？

この寺報は、全ての檀家と当寺にご縁のある方にお届けしています。五百部余りです。年四回の発行ですが、何部だったかナアと、毎回確認しながら印刷

してあります。住所の変更や送付先が無くなつたりすることもあります。現在、本山への登録檀信徒戸数は四一五戸です。檀家さんとは「安住寺檀信徒名簿に登録され、護持会費を納入し葬儀や年忌法要等を依頼する信者さんの家」のことです。

他には、元檀家さんの縁者とか、檀家ではないが墓が当寺に有る家。最近では、やすらぎの塔（永代供養墓）の加入者さんへも寺報を送っています。市内で、地区世話人さんに配布をお願いする数は二七〇戸です。他に、二五〇部位はメール便などで送りますので、発送の時は結構忙しくしています。

ところで、檀家とはインドの言葉の「ダーナ」で、檀那と書き「布施する。支える」と言う意味です。日本では、大家のご主人を檀那さんと呼ぶようになります。檀家さんは、檀信徒の家と言うことですが、大切なのは、布施するだけでなく、信仰が伴う信徒としての行（ぎよう）が重要だと思えます。コロナ禍の今日、大変な事態になりました。寺でも諸行事が行えなくなりました。それでも坐禅

会、写経の会には十人足らずですが、努めて参加されています。残念ながら寺での御詠歌は、皆高齢になり休会となりました。更に、観音講はこの二年間参加者なしとなり、閑栖が一人でお勤めいたしました。本年は、秘仏閻浮檀金観音像の三十三年毎の本開帳の年に当たります。コロナ禍の現況では詳細な日程等が決まっています。心を決める檀家さんばかりになることを念ずる次第です。 閑栖

タイムカプセルに収める「手紙」等を募集中です。25年先に伝えたいことを八月末までお願いします。

行事予定

- 一月九日・早朝初坐禅会
- 一月十七日・大般若・年始会
- 一月二十二日・写経写仏の会
- 一月二十三日・早朝坐禅会
- 二月二十六日・責任役員総代会

三月二十日 10時～11時半 彼岸法要と法話

観音講 二月十七日 三月十七日  
坐禅会 二月十三日 三月十三日

写経の会 二月二十二日 三月二十二日

説教会 卒塔婆供養のみ予定  
都合により変更することがあります